

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船レター～

2015.7.19 vol.65

★\*.....\*★

---

☆ご あ い さ つ☆

---

こんにちは。

台風11号が去って、関東甲信越は梅雨明け。  
学校は夏休みに入り、いよいよ夏本番ですね。  
皆様、いかがお過ごしでしょうか？

三連休スタートの昨日は、台風の大雨によって  
近畿地方などの交通機関がストップして、  
50万人以上に影響が出たそうですね。

今回は特に、四国や近畿地方に大雨が降って、  
地盤が緩んでいる所もあると思いますので、  
お出かけの皆様は十分にお気をつけください！

そして、熱中症などの暑さ対策も忘れずに、  
この連休を楽しんでくださいね。

さて、本日から「今を生きるスターリイマンの物語」の  
第22話をお送りいたします。  
最後までお読みいただけましたらとても嬉しいです。

★\*.....\*★

第22話「今を生きるスターリイマンの物語」  
日本中の家族の夢と幸せをお菓子で応援する

～第1章 菓匠Shimizu 代表取締役社長・シェフパティシエ  
特定非営利法人Dream Cake Project 理事長 清水慎一氏との出会い～

★\*.....\*★

菓匠Shimizuさんの清水慎一さんとの出会いは、  
2008年の年末。

同年の12月19日、20日に出場した  
ドリームブランプレゼンテーションで、  
映像撮影を担当されていた  
(株)光洋のカメラマンの高橋さんにサプライズで  
ケーキをプレゼントしていただいたことがきっかけでした。

そのケーキには、9つの風船を乗せた  
荷車を引くスターリイマンが…！

とても忠実に再現されていて、  
私たちは大きな驚きと感動を覚えました。

スターリイマン・ケーキを作ってくくださったのは、  
南アルプスと中央アルプスに囲まれた  
長野県伊那市にある菓匠Shimizuさん。

【菓匠Shimizu】 <http://www.kasho-shimizu.com/>

菓匠Shimizuさんでは、「夢ケーキ」という、  
子ども達が絵に描いた夢のケーキを  
パティシエ&パティシエールさんが  
本物のケーキにしてプレゼントする  
とっても素敵な取組みをされていることを、  
高橋さんから教えていただきました。

(現在は、子ども達が実際に夢ケーキ創りをする取組みになっています。)

【夢ケーキ】 [http://www.kasho-shimizu.com/dream\\_cake.html](http://www.kasho-shimizu.com/dream_cake.html)

その始まりは、菓匠Shimizuさんの  
3代目代表取締役社長である清水慎一シェフが、  
お店の近くで起こった家族間での殺傷事件に心を痛め、

「もし前日にうちのケーキを食べていたら、  
そんなことにならなかったんじゃないか。  
菓子屋として、そんな事件が少しでも減るように  
何か出来ないだろうか？」

そんな思いから、ケーキで家族団らんの時間を創ることを  
目的にスタートしたそうです。

それから、8月8日を夢ケーキの日に定め、  
子ども達や家族の夢をケーキに託し、  
たくさんの笑顔の輪を広げていらっしゃいます。

なんて夢と愛に溢れた素晴らしいお菓子屋さんなんだろう！  
ますます私たちは実際に訪れ、  
清水慎一シェフにお会いしたくなりました。

それから、色々な方から菓匠Shimizuさんのことや、  
清水慎一シェフのご活躍のお話をお聞きすることはありましたが、  
なかなかお会い出来ずにおりました。

そして、ようやく念願が叶ったのは2011年の4月でした。

東日本大震災の被災地に夢ケーキを通して何か出来ないか、夢ケーキの趣旨に賛同した全国のケーキ屋さんが集う会議に娘の祐希が参加させていただいたのです。

未曾有の事態にすぐに立ち上がり、行動に移す清水慎一シェフに祐希は改めて感銘を受けたようでした。

その後すぐ、5月13日に都内で開催されたセミナーで、私と主人も清水慎一シェフにお会いすることが出来ました。清水慎一シェフも感激してくださって、とっても嬉しかったです。

セミナーの休憩時間には、菓匠Shimizuさんのロールケーキや焼き菓子が振る舞われ、スターリィマンケーキ以来に久しぶりにいただいた優しいお味に幸せいっぱいになりました。

そのご縁で、8月8日に伊那市で開催された「YUME CHARGE PROGRAM 東日本復興チャリティー講演会」でスターリィマンの朗読をさせていただくことになり、3人で菓匠Shimizuさんを訪れました。

草花に囲まれたお菓子のお家のようなお店。扉を開けると、ショーケースの中で色とりどりのケーキやお菓子達が宝石のようにキラキラと輝き、スタッフの方々が明るく出迎えてくださいました。

2階に上がると、ポンデサールというカフェスペースがあり、1階で購入したケーキや、カフェでしかいただけないパフェなどをコーヒーなどと一緒に落ち着いていただくことが出来ます。

たくさんあるケーキから、なかなか一つに絞ることが出来ず、結局私たちは一人3個ずつ選び、それぞれシェアしました。

どのケーキも素材の甘さと果物の酸味のバランスが絶妙で、いくらでも食べられそうです！

帰りには、私たちが購入したより多くのお菓子のお土産を清水慎一シェフのお母様からいただき、心から感謝でいっぱい！

それから、家族ぐるみでお付き合いいただき、近所に菓匠Shimizuさんがあったら毎日通うのにね！とよく3人で話すようになりました。

2012年9月25日に、菓匠Shimizuさんが創業65周年を迎える記念に、是非、スターリィマンの作品を描いていただきたいとご依頼をいただき、オリジナルの絵に、お話を描かせていただきました。

[http://www.dream-hasegawa.com/images/kasyou\\_Shimizu.pdf](http://www.dream-hasegawa.com/images/kasyou_Shimizu.pdf)

現在こちらの作品は、菓匠Shimizuさんの2階のポンドセールに飾っていただいています。

---

タイトル：「ふるさとへ愛と夢の贈りもの」  
～菓匠Shimizuの未来を輝かす家族の原風景～

ここは 中央アルプスと南アルプス  
2つの美しい尾根を望む伊那の町  
戦後まもない 昭和22年9月25日  
清水夫婦に待望の男の子が生まれました

「この子を幸せにしたい」と願った両親が  
力をあわせて 小さなお菓子の商いを始めました  
これが 菓匠Shimizuの誕生の原点です

それから65年間が経った2012年  
菓匠Shimizuのお菓子創りの志を  
守り伝えて来た 清水紀光夫婦は  
息子の慎一夫婦に 夢を託すことになりました

愛情いっぱい 真心込めてつくられた  
菓匠Shimizuのお菓子たち  
毎日 たくさんの家族の温かい笑顔や  
人々の大切な夢の時間を育んでいます

「これからもずっとずっと  
ふるさとのみんなの幸せをつなぐ  
菓匠Shimizuでありますように…」

そんな 紀光夫妻の願いを叶えるために  
スターリィマンは 伊那の町にやって来ました

そして 夢を叶える9つの風船  
希望 元気 勇気 夢 愛 友情 未来 信頼 幸せ  
ひとつひとつに祈りを込めて 伊那の空に放ちました

親から子へと受け継がれてきた  
かけがえのない愛と夢の贈りものは  
ふるさとの未来を照らす光になって  
いつまでも伊那の町を輝かせ続けることでしょう…☆

---

2013年の夏に、伊那食品工業株式会社さんの  
かてんばばガーデンのホールで  
展示会をさせていただいた際は、  
スタッフの皆様やお客様に大勢お越しいただき、  
夢ケーキのコラボレーションイベントまで開催させていただきました。

こんなにあったかくって、お会いするだけで幸せな気持ちになれる  
菓匠Shimizuさんが私たちは大好きです！

今年で創業68年を迎える菓匠Shimizuさん。  
これからもずっとずっと、菓子作り、夢作りを通して、  
たくさんの笑顔や幸せ、人々の夢ときずなを育み、  
輝く子ども達の未来を紡いでいかれることと思います。

私たちも皆様と一緒に、9つの風船をお届けしてゆけたら幸いです。

---

「今を生きるスターリィマンの物語」  
☆第22話の第2章は、7月29日(水)配信予定です！

---

清水慎一氏との出会いは、いかがでしたでしょうか？

夢ケーキの日を8月8日に選定したのは、  
無限大のマークである「∞」にちなんでだそうです。

実は、スターリィマンのロゴマークも  
「みんなのきずながつながれば  
未来の可能性は無限大」という願いを込めて、  
無限大のマークに☆をつけました。

ご家族で育まれてきたお菓子作りのきずなで、  
たくさんの夢と幸せを輝かせていらっしゃる  
菓匠Shimizuの皆様には、共感&共通することがたくさんあり、  
素晴らしいご縁に感謝でいっぱいです。

さて、いよいよ夏休み。行楽の計画を立てられている方、  
是非、伊那に足を運んでいただけたら嬉しいです。

ちなみに、今年の夢ケーキは8月8日、9日に開催されるそうで、  
応募の締め切りは明日までとのことですよ！

<http://www.kasho-shimizu.com/news.html#sec115>

きっとこれまで以上に素敵な親子の時間が生まれますよ。  
是非、お問合せしてみてくださいね。  
お問い合わせ先 0265-72-2915

菓匠Shimizuさんのケーキはもちろん超おススメですが、お母様がお作りになっている「こうらいもち」が私は大大大好きです。

メルマガを書きながら、今すぐに食べたいなあ！と  
思っていました（笑）。

さて、今回は「今を生きるスターリイマンの物語」  
第22話の第2話をお送り致します。

配信は、7月29日(水)です。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

---

☆後 記☆

---

明日の「海の日」は、  
「海の恩恵に感謝し、海洋国家の繁栄を祝う」日として、  
平成8年に祝日になりました。

7月20日が海の日に制定されたきっかけは、  
明治9年6月2日に明治天皇さまが  
東北・北海道御巡幸にお出かけになられた際、  
埼玉・茨城・栃木・福島・宮城・岩手・青森を御巡幸された後、  
青森から函館を経由して、20日に横浜へ御帰着されました。

3日間ずっと荒波に遭い、入港が遅れたそうですが、  
明治天皇さまは終始“端然”としておられ、  
港で待ち受けていた人々を安心させたことを記念して、  
7月20日を「海の記念日」にしたのが始まりだそうです。

その海の日からの4日後の7月24日に、  
ご縁のある横浜で、イベントをさせていただけるのは、  
とても有り難く光栄に思います。

まだ朗読ライブ、ワークショップ共に  
ご参加のお申し込みを受け付けております。

皆様のお越しを心からお待ちしています！  
詳細は、ホームページをご覧ください。  
<http://www.dream-hasegawa.com/about/event.html>

そして、最後に大切なお知らせがございます。

はせがわいさおは、来年6月11日に60歳の還暦を迎えます。  
スターリィマンと共に歩んできた人生を振り返ると同時に、  
スターリィマンを愛し、支えてくださった方々への  
感謝の気持ちを込めて、還暦記念版画を展開することにいたしました。

本日より先行予約販売を開始いたします。  
尚、先行予約特典として、8月31日までにお申込みいただいた  
先着10名様に直筆のスケッチ画をプレゼントいたします。

60歳を目前に、はせがわも画家としての生き方を  
改めて見つめ直しているようです。  
どうかご一緒に応援していただけたら有り難いです。

【はせがわいさお還暦記念版画チラシ】

<http://www.dream-hasegawa.com/images/60hanga.pdf>

【オンラインストア】

<https://dream.stores.jp/#!/items/55a8a9ed3cd482779c003c2a>

それでは、本日も最後までお読みいただきまして、  
誠にありがとうございました！

厳しい暑さが続きますので、  
どうか体調管理に十分お気をつけてお過ごしくださいませ☆

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見 ブログ☆

blog : <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

---

発信元：はせがわ芳見  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX：048-671-7708  
HP： <http://www.dream-hasegawa.com>  
blog： <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

---

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船レター～

2015.7.29 vol.66

★\*.....\*★

---

☆ご あ い さ つ☆

---

暑い暑い7月もあと2日。

皆様、お変わりございませんか？

私は、東北の活動から帰宅してから

夏風邪や熱中症が併発して、

ずっと本調子ではありませんでした。

そんな中、昨夜、石坂産業株式会社さん主催の

「特別公開講座」に参加させていただいたのですが、  
講師の大久保寛司さんや皆様に体調を心配していただいて、  
心も体も元気になりました。

皆様もどうかお身体を大切になさってくださいね！

さて、本日は第22話「今を生きるスターリイマンの物語」の  
第2章をお送りいたします。

最後までお読みいただけましたらとても嬉しいです。

★\*.....\*★

第22話「今を生きるスターリイマンの物語」

日本中の家族の夢と幸せをお菓子で応援する

～第1章 菓匠Shimizu 代表取締役社長・シェフパティシエ

特定非営利法人Dream Cake Project 理事長 清水慎一氏の家族の原風景～

★\*.....\*★

---

Q1.ご家族について教えてください。

---

昭和50年1月18日 長野県伊那市に生まれました。

家族は父、母、兄妹は3歳年下の妹がいます。

現在は、妻と子どもは男の子3人で、

小学校5年生、年長、年中です。（2015年3月現在）

本当は上の子が生まれる前に、流産しているので、  
子どもは4人でしたね。

---

Q2.お父様、お母様のことを教えてください。

---

父は清水紀光、昭和22年9月25日生まれ。  
母は令子、昭和24年5月9日生まれです。

父が生まれた年の昭和22年に、祖父がお饅頭屋を始めたのが、  
菓匠Shimizuの始まりなので、創業年数と父の年齢が同じなんですよ。

父は今思えば、正義感が強くて、一本筋の通った人。  
とっても頑固ですけどね。

ぼくが小さい時から父に言われていたのは、  
弱い者いじめをするとか、  
自分がされて嫌なことは人にはしちゃいけないとか、  
そう言う道徳的なことをすごく小さい時から父は言ってくれてて。

父自身が幼い時に、いじめられていたみたいで、  
そういう経験もあって、ぼくには、自分より弱い者や年下の者を、  
絶対いじめてはいけないとずっと言っていました。

父の言葉とか、父の判断とかに、  
ぼくも頼っていたことがありましたね。

人がいいというか、困っている人がいたら、  
何でもしてあげるそんな父ですね。

母は隣町の駒ヶ根の生まれで、  
小さい時は、ぼくの中では、こわいイメージですよ。

いつも怒られていたような記憶が多いんですけど、  
父よりも母に怒られていたことが多いですね。

母は天真爛漫で子どもっぽいところがあったり、  
かわいい人だなと思うところもあるのですが、  
誰に対しても愛情深く、誰とでも仲良くなれる人なので、  
人なつっこいというか、壁がないっていうか、  
そういう所を見習いたいと思いますね。

母がお嫁に来た時、清水家は祖母が亡くなったばかりで、  
父と祖父の二人だったので、  
すごい暗い家に来てしまったと思ったそうです。

だから、私が太陽になってこの二人を元気づけて励まそうと。

二人が仕事も手につかなかったような状態だったので、その分、私が働くって頑張ったそうです。

母は父と共に、朝早くから工場でお饅頭を作っていました。今、母みたいに私が働けと言われても、たぶん無理だと思うくらい、よく働く母です。

清水家の祖母は、ぼくが生まれる前に亡くなっていましたから、母方のぼくの祖母が、毎日リュックにご飯の料理の材料や飲み物を入れて、駒ヶ根から朝早い電車で30分乗って来てくれて、ぼくたちの面倒をみてくれていたという生活でしたね。

母は長女で、お兄さんと弟の3人兄妹で、母の父親、ぼくの祖父が、「令子のところへ行って手伝ってやれ」と、祖母を出してくれていたからと、母は両親のこと言っていますけど。

父も母もおせっかいなんですよ。父のことで覚えているのは、ぼくが小学生の時に、お店を新しくして、駐車場を作ったんです。

工事の人が、「無断駐車お断り」とか、「駐車場内での事故は責任を持ちません」とか看板をつけますか？付けた方がいいですよと言われていたんですが、家にお買い物に来てくれて、もし駐車場でぶつけちゃったら、修理代を出してあげればいいじゃないかと父が言ったんです。

それってカッコいいなあって思ったのをすごく覚えていて、実際、修理代を出していたこともありました。

ぼくが高校生の時、新車を買って数日後に、車を貸してほしいと言う人に、車を貸したんです。

そうしたら、その人がぶつけちゃって、でも父は貸した私が悪いと言って、修理代は要らないと受け取らなかったんです。

わあ、でかいなあ～そう言うなんてと、びっくりした記憶がありますね。

母は母で、これは祖母なんですが、お買い物に来たお客様に、買った以上のおみやげを渡したとか。

そういう母や祖母や父の姿を、幼心に見て育ちました。  
人としてどうあるべきかを見せてもらって、  
伝えてもらっていたという気がしますね。

小さい時、家はお金がある方ではなかったのに、  
とにかく倹約で外食もほとんどなくて、  
ぼくは一個もゲームを買ってもらったことがなかったですね。

お誕生日とかに、おもちゃを買ってくれたのは、  
母方の祖母の妹の叔母さんでした。  
その叔母さんに可愛がってもらいました。

父と母やあれだけ一生懸命に働いているのに、  
家にお金がないっていうのは、家はさうとう貧しいのかなあ。

そういうのを見ていたので、  
絶対にお菓子屋にはならないって思いました。

---

Q3.子ども時代から家業を継ぐまでの経緯を教えてください。

---

小学校のころ、家にあんまりいなかったですね。  
学校から帰ったら、家に上がらずに、ランドセルおいて、  
友達の所に遊びに行く、ずっと毎日そうしていました。

ぼくが家にいると、母が面倒を見なくちゃいけないなあと、  
とにかく外で、友達と空き地で野球したり、  
自転車で川行ったり、山行ったりして遊んでいましたね。  
おかげで友達がたくさんいました。

妹も一緒に連れて遊ばなくちゃならないので、  
よく無料で遊べる児童館に妹と二人で行って、  
おやつをもらったりして遊びました。

小学3年の時に、仲の良い友達が  
野球のチームに入っていると聞いて、  
一緒にやろうかなと思って、少年野球を始めました。

その時からずっと、大学生の時まで、  
野球の選手になりたいと思っていました。

野球を始めた時から高校2年までキャッチャーだったんですが、  
高2の終わりから、ピッチャーになったんです。  
変わった経歴だと思います。

高校の2年の時、3年生が抜けて 同学年の部員が5人しかいなくて、ピッチャーがないので、一番肩が強くて一番球が速いのをピッチャーにということで、ぼくがなった。

高校は、伊那北高校といって、長野の県立では3回甲子園に行ったところに行きました。

父も同じ高校に行っていて、ぼくも小学1～2年の時から、伊那北高校に入って、野球をするんだって言うのが、小さい時からの一つの目標だったんですね。

そういう意味でいうと、父のやって来たことが、ぼくの道しるべになっていることが多いんです。

伊那北高校に入った時に、ぼくの中の人生の大きな目標を果たしたような気になってしまったんです。ずっと小学1～2年の時から入ってやるんだって思ってきたので、それが達成された時に、もう一生勉強なんかしないぞと思いました。

伊那北高校は進学校だったので、周りの子たちはみんな勉強ができるんですよ。一学年450人で、ぼくの最高順位が442番でした。

落ちこぼれの自覚はなかったけれど、先生からは当時センター試験や模試は受けるなと言われました。ぼくが受けると、高校の平均点が下がるから。

当時はそんなこと言われても、傷つきも何もありませんでした。それくらいぼくは高校で勉強もしませんでしたし、する気もなかったんですが。

周りはみんな頭が良いから、みんなが知っているような大学に行くんですよ。自分の中ではおれは絶対無理だ、行けたらいいけど、無理だと思って。

やりたい事もなかったし、菓子屋になるって決まったわけでもないから、

でも学校の先生になりたいなあなんて思って。でも先生になるには、いい学校に行かなければならない。いずれにせよ、一浪すればどこか行けるだろうと甘えていたんですね。

一浪してもいいやと思っていくつか受けたら、たまたま千葉商科大学に受かったんです。

その時に父に相談をして、一浪して大学に行くか、知られてないけど受かった大学に行くか。

それで、茨城とかで甲子園に行ったメンバーが、千葉商科大学に入っていると聞いて、おもしろいと思って入りました。

入学した時から大学終わるまでの4年間、野球をやっていました。

部員70-80名位いる中で、1年からベンチ入りでいたんですが、大学3年生から、ベンチを外され補欠になったんですよ。

その時、初めて補欠という立場を知って、そんなの経験しないと思っていたから、あれは最初の挫折だったなあ。本当に悔しいし、かっこ悪いし。

同学年のベンチに入れなかったメンバーから、「今までベンチに入れていたんだから、うらやましいよ。俺なんか一回も入っていないんだぞお。」って。軽く言われた時には、ああそうだなあって。

その時にいつも言ってた、父と母の言葉を思い出すんです。相田みつおさんだったかな？

『負ける練習』っていう詩があるんですが柔道の話なんですけど、それをコピーして、手紙と一緒に送ってくれて。

人生には負ける練習が必要なんだと。勝つことばかりしか知らないと、人間にはならないみたいな。だから今は受け身の練習だ。

今思えばいい経験だったなあと。初めてグラウンドに出れない。ユニホームを着れないというのは、試合に出れない人の気持ちを考えたことなかったから。こんな話誰にもしたことがないですもの…。

もう野球は無理だしと思って、高校の野球に監督になろうと教職をとりはじめて、その時、東京のアパートに来た母が、「これからどうするの？」って。

「野球するのなら、野球をしていけばいいし、  
お母さんそれを応援するよ」って言われた時、  
なんか母を助けなくちゃって感じになって。  
大学3年生の時に菓子屋を継ぐわってなって。

父から電話が来て、「菓子屋になるんだったら、  
野球の練習をしながらでもいいから、  
都内のお菓子の夜学の学校に行つて」と言われて、  
それもいやだったのですが、  
夜学のお菓子の学校に通うようになりました。

父は大学へ行きたかったけど、  
お金がなかったので行けないって、  
お菓子の学校に行つて、  
いやいや家業を継いだらしいんですよ。

父もしょうがないから継ごうと思った時に、  
母を助けてあげなくちゃと思って後を継いだんです。

ぼくは大学に行かせてもらつて、そこから  
菓子屋じゃないんだけどと思いながら、  
いやいや家業を継ぐことに決めました。  
だから似ているんです。

大学と同時に夜学も卒業しましたが、  
ほとんど夜学には野球の練習で、行けなかったんです。

夜学に来ている人たちは、  
パティシエになりたくて来ているから、  
一生懸命やっているんですよ。

ぼくはお菓子の授業をして、  
お菓子を作つていてもつまらないんですよ。

こんなことしたいんじゃないんだなあとか  
ずっと思つていたから、  
あんまり行かなかつたのかも知れなかつた。

おもしろくなくて。  
なんでおもしろいだろうってわからなくて。  
菓子屋になる熱い思いはまったくなくて。  
でも母親を助けてあげなくちゃいけないという想いは、  
どこかにあるんです。

夢とか目標とかではなく、義務感ですよな。  
変な長男としての責任。

それは幼い時に、朝から晩まで、  
働いている父と母の姿を見ていたから。

これだけ一生懸命働いて、大学まで行かせてくれて、  
夜学も行かせてくれて、  
相当なお金がかかっていると思うんですね。

ここまでされたら、継がなくちゃだめだろうって。  
母はおまへのやりたい事って、応援してくれましたから。  
お菓子屋さんになりなさいって言ったことはない。  
嬉しいなって最初は思いましたけれど、  
すぐに罪悪感に変わって。

卒業して、都内のお菓子屋さんに入って、  
毎日起こられてばかりで、楽しいはずがなくて、  
厳しいわけですね。職人の世界って。

毎日辞めたくて辞めたくて。  
ずっと自分の中で言い訳をしながら  
こんなことをおれは本当はやりたかったことじゃないって。

ダメダメですよ。  
今会社でぼくと同じような社員がいたら、  
気持ちはわかるけど、お前もうちょっと頑張れよって。  
間違いなく言うようなダメダメだって。

いつも母の姿は頭にあっただので、  
こんなところで負けてられないなあって。

あと、働いていた時に一人の先輩が、毎日怒られて、  
しょげてどうしようもないぼくを見てて、  
「殺されるわけじゃないんだから、もっと思い切りやれよ。」って。

その先輩は何気なく言ってくれたんだけど、  
ぼくは「そうか」と腑に落ちたというか。  
そうだなあ、どれだけ失敗してどれだけできなくても、  
殺される訳じゃないな。確かになあって。  
そこでとっても気が楽になって。

落ち込むと長いですが、抜け出すと早いので、  
よし、思いきりやろうかなあと思い、その時掲げたのは、  
「日本一のお菓子屋になろう！」

父と母が「伊那市で一番になりたい」って、ずっと言っていたんですよ。  
当時はうちのお店を知っている人なんて、  
ほとんどいなかったんですね。

いつかお前が帰ってきてくれたら、  
伊那で一番のお菓子屋になりたいってずっと言っていたので、  
特に母が。伊那で一番なんて…日本で一番だろうって。  
それが、22～23歳の時でした。

ちょうどパテシエという言葉が出始めた頃で、  
「おれも絶対カリスマパテシエとか、あぁなってやる！」と、  
野望がそこに生まれました。

その瞬間に、母とか実家に対する気持ちが  
同時に消えてしまって。  
それがぼくの大きな失敗の一つだったんです。

誰かのためにがんばろうって思う気持ちがあったのに、  
いやおれがやるんだ。それで突っ走ったわけですよ、数年間。

たぶん海外とか行ったとか、コンクールに挑戦するとかで、  
賞をもらったりとかで、どんどん鼻が伸びていくわけですよ。

「おれが本気だとすごいんだぜ」みたいな。  
誰にも負けないんだ。フランスに行った時も、  
もう実家に帰るなんてやめよう。  
都内できっとすごいオファーが来るんだと思って、  
どんどん調子にのって行って。

現実とは違って、実家に帰る日が近づいて来て、  
帰ってきて、また、九州で勉強させてもらったんです。

地域の人たちに指示されるお菓子屋さん、  
田舎で繁盛しているお菓子屋さんを見てみたくて。

そのお店では、色んな事を勉強させていただきましたが、  
ぼくの中にあっただのは、  
そこまでプライドを捨てきれないなって気持ちは、  
正直ありました。

お客様に合わせるというのはわかるんですけど、  
じゃ今まで自分が勉強してきたことをどこで活かすの？  
そこまでプライド捨てきれないっていう変な気持ちがあって、  
でもそういうことは大事なことだとわかりましたけれど。

おれは違うな。おれはこんなことやるんだ。  
自己中心的ですよ。物事の考え方が。

誰かに食べてもらって、喜んでもらおうというよりも、  
自分はこんなお菓子が作れるんだ！ということ、  
世の中に示したいという気持ちの方が強くて。あの時は。

そんな気持ちで実家に帰って来たから、  
自分のカッコよさとか、そういうことを突き詰めた数年間でした。

今思い返すと、それがあったからよかったし、  
技術をどんどん追求せず、人に喜んでもらおうとかと言っても、  
たぶん薄っぺらいものになっちゃったうんじゃないかと思います。

お菓子は芸術一本でいくと、自己満足。  
食べた人が何かよくわかんない。  
味わかんないけど、すごいでしょう？みたいな。

食べた人にはわからないけど、  
このいちごの味を引き立たせるための裏ワザは、  
めちゃうちゃ隠されているんだよ。というのが  
これが芸術という、極めてわかる。

その技術を突き詰めて、  
人に喜んでもらうケーキを作ったところで、  
じゃそれってどうやって喜んでもらうの？  
美味しくなければ、いくら想いをこめても、  
まずいってなったらね。

自分の思いや技術を追求して、結果として人が喜んでくれる。  
そこを突き詰めて行った時間があったから、  
その幅が広がってきたんだと。バランスだと思うんですよね。

ぼくが家に戻ったのが2002年なので、  
それから2006年までの4年間は、激動の4年間でした。

ぼくは完全に上から目線で、父や母にことも全部気になって、  
「なんでそんなことするの？そんなの意味ないよ。」って、  
毎日言い続けてた。

そりゃ、やんなっちゃいますよね。とにかく喧嘩と言い合い。  
だからみんなついて来れなくて、人は辞めていくし。

でもショーケースに並ぶケーキは、ぜんぜん華やかになって、  
ショーケースだけしか見ない人たちは、  
清水はすごいことになったと思うわけですよ。

それに不思議なことに売れてるんですよ。  
内部事業がよくない企業は、伸びていくはずはない  
ということを知ってはいたけど、そんなの嘘だって。

ちゃんとしたものを作って、いいものさえ作ってれば、  
うちみたいに売上げが上がっていくじゃない。  
またそれも勘違いで、拍車をかけるわけですよ。

でも、これもそうやって、ぼくの虚勢を張っていた。  
そんな親と喧嘩して、スタッフをののしって、  
ギスギスした仕事をやってることがいい事のわけがない。

偉い人の話を聞くと、自分が変わらなければ人は変わらないよとか、  
そういう事聞くんですけど、またそういう言葉がうっとうしく感じて、  
そんなこと分かっているよ。そんなに変わらないよ。ってなって。

どんどん売上げが延びて、それに戸惑いを感じながらも、  
どうせ自分を分かってくれる人は誰もいない。と思っていました。  
好きなこと言っておいて、本当に勝手なんですけど、

そんな風にくすぶっていた時に、長男が生まれたんです。

2001年に結婚をして、妻は一度流産して、  
その時に先生から、今後子供が出来るという保証はありません。  
もしかしたら難しいと言われていて、でも長男が生まれて。

長男が退院する時に、病院の駐車場で  
生まれたばかりの長男を抱っこしながら、ふと思ったんです。  
おれが生まれた時には、誰が抱っこしたんだろうって。

親父じゃないよな、そんなことはない。  
あの親父がおれのこと抱っこするはずがない。  
そこで駐車場のところで涙が出てきてしまって。

おれはなんて情けないんだろう。  
この子が30年後に、ぼくと同じようなことを言ったり、  
やっていたら、おれは悲しいなって。

その時はじめて、父の思いとか、  
その間に挟まれている母の思いというものがドア〜ンときて。

それまでのぼくは、実家のために一生懸命に修行をして、  
技術を高めて、ようやく帰ってきたのに、親にわかってもらえない、  
スタッフもついてこらない。可哀想な跡取り息子という、  
ぼくは悲しきヒーローなんだというシナリオがあった。

ずっといてくれたパートさんが、  
「慎ちゃんね、お母さんも私たちも  
みんなあなたの帰りを待ってたよ。  
特にお母さんなんて、毎日、慎一が帰って来るよ。  
本当に指より数えてた。

帰ってきたら、本当に色んなこと教えてもらえるし、  
お店もきれいになるし、清水は変わるよって。

それまでみんな一緒にがんばってようね。  
慎一が帰ってきたら、今より絶対よくなるから。  
って言ってたけど、慎ちゃん今これ何？」

ぼくが思っていた全く真逆なストーリーがあるわけですよ。  
長男が生まれた時に、これはやばい。  
ぼくが帰ってきたことによって、すごい台風どころじゃないことを、  
ぐじゃぐじゃにしているわけですよ。

大好きなおばあちゃんにも、  
「お前は毎日楽しいか？」って言われて。

「楽しいわけないだろう。  
おれの言ってること誰も聞かないし…。」って答えたら、  
「お前は自分のためにだけ頑張っておるんか？」

「当たり前だろう。おれがおれのために頑張らんでどうする。」

「何もつまらんのよ、自分のために頑張る人生ってつまらんぞ。  
自分以外の誰かのためにがんばる男になってみる。  
そしたら、お前の人生変わるかも知れんぞ。」って。

ぼくは何も言い返せなくて、涙も出て来るし、  
その時におばあちゃんは、  
「お前はとにかくお母さんを助けてあげなさいよ」って。  
「お母さんの手伝いをしてやってくれ」って。

ここでぼくは変わらなければ、  
一生ぼくはつまらない男になってしまう。

そして、自分の中で思ったのは、  
取り戻そうって思ったんですよ。  
今もずっと思っていることなんですかど。

一番取り戻したかったのは、親子関係。

長男が生まれたことで、自分が子どもの頃の心に戻って、  
親に対して素直に話が出来たり、  
謝ったり、感謝出来たり、言葉を伝えることが出来たり、  
小学校の低学年の時の頃に戻りたいと思ったんですよ。

そこから父と親子ミーティングをしました。

スタッフ全員の宣言をして、毎日30分話をしました。  
そんな中で父が、「おれも実はお袋を助けたいと思って  
お菓子屋になった」とか、色んな話をしてくれて、  
そんな時に思い出したんですよ。

小学校の時はね、こんな感じだったなあって。  
ご飯食べながらとか、こんな会話していたなあって。  
そこに母がいて、妹がいて。

今、実際に父と話をしている時に、母が入ってきて、  
家内も入ってきて、スタッフも入ってきて、  
本当に当たり前なんですけど、  
当たりの会話が成り立つようになったんですよ。

その時にこれだなあって。  
こういう気持ちでやっていけばもっと楽しいし、  
その時売り上げがどうかとか、  
全く思わなかったんですけど、  
もっと良いお菓子屋さんが作れるんじゃないかなって思えて。

その時、父の言葉で印象的だったのが、  
「菓匠Shimizuは何のためにあると思う？」

恥ずかしさもあって、  
「お菓子をつくるだけだろう」って言ったら  
「それも大事だけど、今日働いてくれている社員の方たちが、  
仕事が終わって家に帰る時に、  
「今日もShimizuで働けて良かったなあ。」  
そう言ってもらえる毎日をつくることだぞ」って。

また、久しぶりに親父カッコいいなあという、  
何十年ぶりの感覚ですよ。

一人で日本一になるって思っていたけど、  
みんなで菓匠Shimizuを日本一にしようって思えたんですよ。

そこから、スタッフでミーティングを始めたりとか、  
当たりにみんなで話して、  
当たりにみんなでやりたい事を言いながら、  
「よし！じゃ、みんなでやっぺいこう！」というものが出来たんです。

この前もスタッフの食事会の時に、  
「あの時からうちはこんな風になったよね。」と言ったら、  
母が「お前が帰って来る前は、そうだったんだよ。」って言われて。  
辞めていった子もたくさんいたし、申し訳ないなと思うんですけどね。

何のためにお菓子を作るか？  
お菓子を食べた美味いだけじゃなくて、  
美味しい先にある大切なことを知った。

ぼくにとっては、実家に戻ってきてからの  
この4年間は、最高の学びの時間でした。

父とちゃんと向き合って話せて、謝れて、お礼を言えて、  
母に対してもですよ。

33歳の誕生日に「産んでくれてありがとう」って、  
初めて口に出して、不思議とそんな言葉を口にするだけで、  
素直になれる自分を感じて。

素直な自分になると、ぼくのやりたいことが  
浮かんでくるんですよ。  
それまでは野望でしかなかったけど、  
みんなでこうしていこうとか。

みんなで共有できるようになってからは、  
私たちはお菓子を創ることだけではなく、  
その先の家族の団らんの時間を創って行こう！

それを、「菓子創り 夢創り」の言葉にして、  
ぼくは大切な人と夢を語る時間がいかに大切か。

ぼくが最悪だった時に、長男が生まれたことをきっかけに、  
家族で一緒に、語り合える時間が持てた時に、  
ぼくは変わってきた。

この家族で語り合える時間を、菓匠Shimizuは、  
お菓子を通して提供したいなの思いを掲げて、  
初めてようやく菓匠Shimizuの軌道に戻ったんです。

描いていた絵があるじゃないですか。  
あの絵の中に、菓匠Shimizuの大きな樹があって、  
星が降り注いでいて、あの時にもう  
見透かされているような感覚と、  
確かに色んな人たちの想いとか気持ちが、  
ここに降り注いでくれているんだなって思った。

何かもっと自分の道を、きちっと人の役に立てて、  
親孝行して、男の道をしっかりとすすまなくちゃって。  
ぼく一人の思いじゃないですか。

色んな人の思いが降り注いでいるって、  
お話で言っている時に、ああそうだなって、思いましたね。

---

Q4.夢ケーキを始めてからNPO法人を設立するまでの経緯を教えてください。

---

2006年に夢ケーキを始めたのは、  
2006年の秋口に伊那市の隣町で家族間の殺人事件があって、  
たぶんあの家族はうちで  
ケーキを買ったことがあったんじゃないかって。

その時、ガアーツという上がってくるものがあった。  
うちは何もできなかったんだのかなって思って。

常々、スタッフに言っていることなんですけど、  
本当の技術って何なんだ？と。  
それは、誰かがしてほしいこと、誰かが食べたいことを、  
予想を少し上回りながら、そのお菓子を作れることなんだ。

その技術を高めていって、結果をとして  
お客様に喜んでもらえるような場所を作っていこう。  
お菓子を通じて、世の中を平和にするんだと言っていたのに、  
すぐそこで家族間の殺人事件が起こってしまいました。

次の日の朝礼で、あれは家族にうちが  
何もしてあげられなかったから、あの事件が起こったんだと。  
何かできることがないか？ということから、  
この夢ケーキのイベントが始まりました。

父親に切りつけた息子の気持ちが、  
あの時のぼくには分かってしまって。

親に対する反感とか、怒りとか、どこにもぶつけられなくて。  
だからこの子はそれをやってしまったただけだなんて。

だからこそ、家族で夢を語る時間、  
夢ってやりたい事だけでなく、  
不安や心配事や愚痴や何でも語ること。

そんな夢を語る時間を提供するというのは、  
ぼくたちの役割としてやっていきたいと  
夢ケーキを始めました。

お菓子って、幸せになる力を与えてくれるでしょう。  
家族の団らんで、家族の幸せな形、  
そこにお菓子を提供するというので、  
スタートは2006年10月に、創業記念祭というのを毎年やっていて、  
その時に合わせて、2010年までの5年間やりました。

2006年は50件、2007年は100件、2008年は300件、  
2009年は600件、2010年850件となっていたんですよ。

300件になった時。父に、

「お前の思いでやるのはいいけども、  
徹夜に近い状態でこんなにスタッフに負担をかけながら、  
しかも入って来るものがない。  
こんなことやっていて意味があるのか。やめろ。」  
と言われたんです。

確かにそうだなと思って、  
スタッフにやめようって言ったんですよ。

そしたら、チーフの小松が血相変えて、  
「慎一さんは何で夢ケーキ始めたんですか？  
何のために夢ケーキ始めたんですか？

私たちが大変なのを気遣ってくれるのはすごく嬉しけど、  
でもそんなのを理由にやめられたら、  
私たちはたまったもんじゃないです。

やれる方法をみんなで考えますから、  
やらせてほしい、続けましょう。」

スタッフみんなが苦しい思いもないし、  
むしろ楽しいからやりましょうよって言ってくれて、  
もう一年だけやろうと言う事になって。  
次の年に600件の倍になって。

でもスタッフのみんなが生き生きと嬉しそうにやってて、  
あの姿を見た時に、これやばいなあと思って。

あとで聞いたんですけど、こんなにも人に喜んでもらえて、  
私たちがパティシエである理由をもらえるイベントなんだと。  
なるほどなあと思って、じゃ何とかして  
続けられることを考えなくちゃね。

今もそれは確立できてないんですが、  
850件までは気合でやりました。  
大変なこといっぱいありましたよ。

600件やりきった時に、ぼくたちみんなは  
どんどん気持ちが深まっていったんですよ。

みんなでやれば出来ないことなんかないんじゃないかって。

しかも、自分のためにやっているんじゃなくて、誰かが喜んでくれて。

次の年、さすがに850件の時は悩みましたね。この時に全国のお菓子屋さんがお手伝いに来てくれて、自分のお店を休みにして。最初は嬉しかったですけどね。これはダメだらうなって。

父から「誰かの犠牲の上に成り立つ幸せはないぞ」と、夢ケーキをはじめから言われていましたから。確かにそうだなと思って。

それで、2011年から菓匠Shimizuの夢ケーキは、今までのやり方を変えたんです。

ぼくたちが創って差し上げるだけでなく、さらに家族の絆が強まるように、みんなで創ればいい！とスタッフの意見が出て、そして、家族でみんなで参加して作ってもらう方法にしたんです。

2012年に、参加してくださったお客様から、終わった時にぼくの所にきてくれて、「子どもが3人いて、その子たちが小学校卒業するまで、夢ケーキをやらせたいから、お願いだから無料はやめてください。無料でやられたら申し訳なくて、申込み書を書けないから」と言っていた。

その時、無料より高いものはないとそれを始めて感じて。

無料でやっているのはエゴかもしれない。自己満足かも知れない。

無料でやってもらって、申し訳ないよねって、思わせるのも負担だと思ったんです。だったら材料費だけでもいただこうかと思って。

今度は夢ケーキの日になると材料屋さんが、全部提供してくれるんですよ。これも負担だよ。

だったらみんなが負担なく続けられるために、手段としてお金を頂く方が良くということで、材料費だけはいただくようになりました。

もともとこれを商売につなげようとか、お金儲けしようとか、いっさい頭になかったから、それだからバカだといわれるんですけどね。今も資金的なことは何も解消されていないですよ。

2011年に8月8日は夢ケーキの日と定めて、  
夢ケーキをNPOにしました。

でもNPOは正直、あまり機能していません。  
年3回集まって、みんなで勉強会したり、技術講習したり、  
NPO活動というのは出ていない状態です。

それから、震災後に被災地支援ということで、  
現在も継続して毎年10月に、大槌には行っていますが、  
被災地支援団体でもないよね。

被災地だけがすべてじゃないよって、みんなでしていて。  
NPOの活動はなかなか皆さんに  
ご報告するような活動が出来ていないんですけれど。

全国にお菓子屋さんが、夢ケーキという言葉、  
誰でもどこでも使えるようになって、  
それは良かったなと思ってます。

---

Q5.今後の夢や展望について教えてください。

---

何がなんでも達成したい事柄とか結構あったんですけど、  
ここ数年はないんです。

夢ってがむしゃらにやれば叶うのか？！  
前はがむしゃらにやったらどうでも出来るんじゃないかって  
思ったかったし、思っている自分もいた。

でも、そうじゃないんだなあって、  
気がついたら叶ってるっていうのが、  
実は夢じゃないとか、色んな定義があると思うんですが、  
ぼくが最近思うのは、人をお願いされること、  
頼まれることを増やしていきたいと。

身近な所で言えば、スタッフたちがやりたいことや  
実現したいことを、一個一個形にしていきたいと。  
それが夢って言ったら、したいこと事かな。

お菓子創りという一つの夢から、  
夢の描き方、夢の繋ぎ方、夢について、  
全国の子供たちに伝えて行く。  
そういう学校をつくらうかなと。

今、中学生を集めて、「夢塾」をやっているんですよ。  
[http://www.kasho-shimizu.com/menu\\_item311.html](http://www.kasho-shimizu.com/menu_item311.html)

これ、3年やっているんですけども、こういうことを  
地元子ども達を集めて出来れば面白いなあと思ってることを、  
カリキュラムに盛り込んで。  
実際、ケーキも作ったりするんですけど。

まず、最初は何のために働くのかな？  
夢ってなんだろう？とか。  
子ども達に考えるきっかけにして、親子で参加なんですよ。

お菓子をベースに、社会的弱者、少年院の子ども達、  
親がいない子供たち、児童養護施設の子供達とかが、  
何かのきっかけになれるようなことがしたいなあ願って。

子ども達がどのような感動を子どもの頃に受けたか、  
どんな大人に出会ったか。  
それを子どもだけでなく、家族で体験していただく。

また、ファームをつくる予定です。  
それも要請があって。  
家も2017年に70周年なので、お店の北側の700坪を  
昨年末に購入しまして、お菓子教室をやりたいなって。

父も人生の集大成として、  
もう一度和菓子に特化したお店を創るとか。  
色んな話が出ているんですけども。

---

Q6.清水慎一シェフにとってのスターリイマンは誰ですか？

---

これは難しいな。  
ずっとこのインタビューのお話をいただいた昨年から、  
1年も考えていて。

当然、妻も、両親も、スタッフもそうだし、  
出会った人すべての人たちに、  
色んなぼくは風船をいただいているんだなと思うんです。

その時、その時で、風船をもらっている割合が  
多い人はいますけど。

そういえば、この前、少年院であった少年も、  
ぼくにきっかけを与えてくれたスターリイマンだな。

「夢なんかわからないです」と言っていた少年の話した時、  
突き詰めた結果、「宝くじが当たりたいって、それが夢です」ってなって。

「いくらほしい？」と聞いたら、「2億円」。

「宝くじが当たっても、そのお金を  
何に使おうとするかが大切なんだよ。」と言ったら、  
「だったら、自分の欲しいものに一億。  
もう一億は家族に迷惑をかけて来たから、  
家族のために家をつくらうと思います。  
それでも余ったら、ぼくと同じような子ども達に寄付します。」

その時、彼はすごいなあと思いました。  
そういうことを考えている子ども達がいるんだって。  
子ども達って、元々そういう感覚を持っているわけじゃないですか。  
それをぼくは教えてもらいました。

周りの大人の環境作りがとても大事だなと  
考えさせられて帰ってきました。

あの子からも風船をもらったなあ！

---

「今を生きるスターリィマンの物語」  
☆第22話の第3章は、8月9日(日)配信予定です！

---

清水慎一氏の家族の原風景は、  
いかがでしたでしょうか？

菓匠Shimizuさんの創業の原点は、  
生まれた子の幸せを願う親の愛。

その愛をずっと育ててきた清水家のお菓子創りは、  
家族の夢ときずなを育む「夢ケーキ」となりました。

スターリィマンの原点である  
「ユキへのおくりもの」の作品とも、  
想いが重なって胸がいっぱいになっています。

慎一シェフのお父様と慎一シェフが  
お菓子屋さんを継ぐきっかけとなった  
お母様を助けたいという想いは、  
きっとまた3人の息子さんたちに  
受け継がれて行くのでしょうか！

スターリィマンの星のように輝く菓匠Shimizuさんの未来。  
これからも、いつまでもいつまでも  
みんなに夢を幸せを届けてくださいね☆

さて、今回は「今を生きるスターリイマンの物語」  
第22話の第3話をお送り致します。

配信は、8月9日(日)です。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちしております☆

---

## ☆後 記☆

---

7月24日の土用の丑の日は、  
氷川丸で朗読ライブとお絵かきワークショップの  
イベントを行いました。

ご参加いただいた皆様と共に、  
氷川丸の85歳のお誕生日をお祝いできて、  
とても嬉しい思い出の日になりました。

さいたま市長の清水勇人氏からも、  
応援のメッセージをいただきまして、  
横浜と埼玉のきずなをつなぐ一役になれたかなと  
有り難い機会に感謝でいっぱいです。

応援してくださった皆様、  
どうもありがとうございました。

ちなみに、清水慎一氏ご夫妻は、  
氷川丸でプロポーズされて結婚されたそうです。  
そして何と昨日7月28日が結婚記念日だったそうです。

慎一シェフは奥様への結婚記念日に、  
素敵な愛のメッセージと共に  
氷川丸の版画をプレゼントしてくださいました。  
いつまでもお幸せに♡

それから、スターリイマンの初の絵本が  
ようやく出版出来ることになりました！

就学前から小学低学年のお子さんの  
親子のきずなを育むコミュニケーション絵本  
「きょうはこんなことあったよ！」

これから出版原稿の創作に集中して頑張ります！

また出版日などが決まりましたら、  
皆様にお知らせさせていただけたらと思います。  
是非応援していただけると嬉しいです！

あと、前回ご案内させていただいた  
来年還暦を迎えるはせがわの記念版画ですが、  
早速数名の方が「おめでとうございます」と  
お祝いの気持ちを込めてご注文くださって  
とても有り難かったです。

事前予約特典付きのお申し込みを  
引き続き8月31日まで承っております。  
詳細は、下記のリンク先をご覧ください。

【はせがわいさお還暦記念版画チラシ】

<http://www.dream-hasegawa.com/images/60hanga.pdf>

【オンラインストア】

<https://dream.stores.jp/#!/items/55a8a9ed3cd482779c003c2a>

それでは、本日も最後までお読みいただきまして、  
誠にありがとうございました！

暑さ対策をしっかりとって、  
楽しい夏をお過ごしくださいませ☆

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見 ブログ☆

blog : <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

---

発信元：はせがわ芳見  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX：048-671-7708  
HP： <http://www.dream-hasegawa.com>  
blog： <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

---

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリマンの物語」～感謝の風船レター～

2015.8.9 vol.67

★\*.....\*★

---

☆ご あ い さ つ☆

---

立秋を迎えても尚、暑い日が続いておりますが、  
皆様、お変わりございませんか？

今日は福島市で開催された「ふくしまキッズ博」にて、  
福島キワニスクラブの皆様のブースで  
スターリマン紙芝居ライブを行い、先ほど帰宅いたしました。

開場前からたくさんの親子さんが入口に並んで、  
会場内の各ブースには子ども達の笑顔が溢れていました。  
おかげ様で、紙芝居ライブも休みなく大盛況で、  
私たちにとっても思いで深い夏の日となりました。  
<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/blog/>

来週末は、郡山市で開催の「絵本フェア2015」で  
紙芝居ライブを行わせていただきます。  
またどんな出会いがあるのだろうと今から楽しみです。

それでは、本日は「今を生きるスターリマンの物語」の  
第22話の最終章をお送りいたします。

最後までお読みいただけましたらとても嬉しいです。

★\*.....\*★

第22話「今を生きるスターリマンの物語」  
日本中の家族の夢と幸せをお菓子で応援する

第3章 菓匠Shimizu 代表取締役社長・シェフパティシエ  
特定非営利法人Dream Cake Project 理事長 清水慎一氏の  
～スターリマンへ宛てた感謝の風船レター～

★\*.....\*★

スターリィマンへの手紙

フランスパリ修業時代

アパートマンを貸してくれたセルバ・アンリ・道子夫妻へ

2000年春、僕は単身パリへと向かいました。  
働く場所も住む場所も、親しい友人すらいない、  
しかも滞在許可証もない状態での渡仏は、  
今思えば無謀とも言えます。

でも当時の僕は、思い立ったら即行動！  
居ても立ってもいられずにパリへ行きました。  
知らない世界に一人で飛び込むのは勇気が必要でしたが、  
そんなちっぽけな勇気はパリ到着後すぐに打ち砕かれました。

簡単に見つかるだろうと思っていた住居は、  
パリ到着後3日経っても1週間経っても  
10日経っても見つかりませんでした。  
それもそのはず、フランス語をしゃべることができない僕などを  
相手にする大家さんなどいるはずありません。

毎日朝から晩まで部屋を探し、  
電話をしても言葉が通じずに電話を切られる・・・。  
そんなことを何度もバカのように繰り返す毎日。

フランス語講座の本を片手に電話するも、  
会話などできるわけもなく・・・。  
パリ日本人会にも助けを求めましたが相手にされず・・・。  
予約をしていたホテルを延長滞在することもできず・・・。  
このままでは本当にホームレスになってしまう・・・。

途方に暮れながらも、その日も昨日と同じように  
部屋貸し情報を探しに出ました。

昨日まではなかったアノンス（様々な情報が掲載されるチラシ）が一枚。  
そこに今まで目にしなかった日本語表記の賃貸情報。  
その紙をはがし取り、すぐに電話をかけました。

また、同じように日本語が通じずに切られるのかと思いながら。  
受話器の向こうでは、初めて僕の日本語に応じてくれる女性の声。  
まさに僕にとっては女神様の声でした。

部屋を貸してくれるかどうかよりも、  
その女性の声に巡り合えたことが、  
僕にとっては救いと安らぎの出来事でした。

その声の主が道子さん、あなたです。

とりあえず部屋を見に来てから住むかどうか決めれば良いと言ってくさいましたが、部屋を見る前から僕の気持ちは決まっていました。

当然といえば当然です。この出会いを逃したらどうになってしまうかわからない不安な状況下で、部屋を選ぶなどという贅沢な選択肢はありませんでした。

パリ20区ガンベッタ。  
パールラシェーズ墓地近くの、エレベーターの無い築100年以上の7階建てのアパルトマンの最上階。

天井の低い部屋でしたが、窓からはエッフェル塔がきれいに見える最高の眺めでした。僕にとっては贅沢すぎる最高の住居でした。

「ここに住ませてください」とお願いをして、快諾いただけた時の大きな感動と安堵は忘れることはないでしょう。

簡単な契約手続きを済ませたあと、道子さんは僕にありがたいお話をしてくれましたね。甘い考えで思いだけでパリまで来た僕にとっては、本当に心に染みる、一生忘れることのできない言葉をいただきました。

- ・フランスという国で生活をしていく以上、フランスのしきたりや習慣を大切にすること。
- ・人に頼るのではなく、自分の力で生きる工夫と知恵を身に付けること。

この二つの教えは、今の生活の中でも僕の指針になっています。そして、道子さんはこんなフランス語をメモ用紙に書いて渡してくれました。

【se debrouiller】 = 自力でなんとかすること

それまで、周りに甘えていた僕にとって、本当に衝撃的な言葉であり、道子さんからの最高の叱咤激励と受け取りました。

「一人でも生きていける強さを身に付けなさい。  
強く優しい男になりなさい。」  
そんな風に伝えてもらいました。

今までもこれからもずっとずっと大切にしていきたい言葉です。この言葉は今でも僕の宝物として、道子さんが書いてくれたメモ用紙をいつも持っています。新店オープンの際には、コックコートに右腕に刺繍もしました。

その後のフランス生活の中でも、  
道子さんは頻繁に僕を訪れては、  
食事の心配をしてくれたり、  
慣れない仕事や生活の悩みを聴いて下さいましたね。

どれだけ安心感をもらったことでしょう。  
コンクール出品時には会場までわざわざ作品を  
見に来て下さいました。本当に嬉しかったです。

仕事でシェフとうまくコミュニケーションがとれずに  
毎日怒られていたとき、「もっとフランス語を勉強しなさい」と、  
日本人のフランス語の先生をご紹介してくれました。

しばらく通いましたが、あまり期待通りには  
上達せずにごっかりさせてしまいましたね。  
自宅にも何度もお招きいただき、  
いろんな話を聴かせて下さいました。

道子さんがフランスに来た経緯。  
結婚から今の生活までのこと。  
本当にいろんなことを話して下さいました。  
かけがえのないパリでの団らんの時間でした。

ボジョレーヌーボー解禁日には、  
ワイン好きなセルバ夫妻とお仲間の皆さんに連れられ、  
朝までパリ中のバルやブラスリーを飲み歩いたこと、  
夏には、スペイン国境近くのコリウールにある別荘に  
ご一緒させていただいたことも忘れられない大切な思い出です。

当時僕は25歳。まだまだ人生経験も少なく、  
失礼なことも多々あったように思いますが、  
あなたはいつも僕に寄り添って下さいました。

あるとき、僕が思わずあなたのことを  
「お母さん」と呼んでしまったとき、  
「私で良ければフランスでのあなたのお母さんになるわよ」と笑ってくれたこと。  
今思い出しても涙が出てきます。

それから僕は遠慮なくあなたのことを「お母さん」と呼び続けました。  
今ここで久しぶりに呼ばせてください。

「お母さん、今の僕があるのはフランスのお母さん、あなたのお陰です。」

伊那市での新店オープン時、  
なんと！あなたはご主人のアンリさんと一緒に、  
わざわざ伊那まで来て下さいました。

「自宅に宿泊してもらうのが、フランス流のおもてなしよ」と言って、僕の自宅にご夫妻で宿泊していただき、妻や息子に、僕のフランス時代の写真を見せながらいろんなお話をしてくれましたね。

本当に有難く楽しく、これ以上ないお祝いの時間をいただきました。

お母さん、今僕は、30名以上のスタッフとともに、「菓子削りは夢削り」を信条に仕事をしています。

スタッフ教育の中でも、お母さん教えてもらった、「自力でなんとかすること」の大切さを伝えながらも、お母さんにしてもらったように、彼らを全力でサポートしていきます。

ただ、甘やかすのではなく、自分の力で生きていける強さを持ったスタッフが育つように、お母さんのように愛情を持って伝えていきます。

お母さん、フランスと日本は遠くて頻繁には会えないけど、ずっとずっと元気でいてください。

そして、またフランスに訪問した時には、あなたの好きなワインを飲みながら、今日までの日々のこと、これからの夢の話がたくさんしたいと思います。

お母さん、僕に出会ってくれて本当にありがとう。あなたとの出会いは僕の一生の宝物です。再会の日を夢見て。

清水慎一

---

「今を生きるスターリィマンの物語」  
☆特別編は、8月19日(水)配信予定です！

---

清水慎一氏のスターリィマンへの感謝の風船レターは、いかがでしたか？

一昨日、この原稿をお送りいただき、読ませていただいた時に、感動して涙が止まりませんでした。

お母様を助けたい一心で単身でフランスに渡り、  
不安でいっぱいだった慎一氏の前に現れたマダム通子氏。

慎一氏を想っての愛溢れる厳しい言葉。  
いつも慎一氏を気遣い、導き、支え続けてこられた  
マダム通子氏とのエピソードに触れ、  
思わず慎一氏が「お母さん」と呼んでしまったお気持ちも  
大変理解出来ます。

日本の母、フランスの母。  
お二人が届けた温かな愛の風船は、  
きっとこれからも慎一氏のお菓子創りの道を、  
そして、人としての人生を輝かせ続けることでしょう☆

私は、このメールマガジンの取材やお手紙を通して、  
ますます菓匠Shimizuさんのファンになってしまいました。

菓匠Shimizuさんのお菓子や慎一氏の書籍など、  
ネットショップで購入することが出来ますので  
是非、お求めいただくと嬉しいです。  
<http://shop.kasho-shimizu.com/>

さて、今年は戦後70年という節目。  
今日で70回目の長崎の原爆の日を迎え、  
次の世代に語り継ぐべく、  
様々な特集番組や取組みが行われています。

そんな中、次回のメールマガジンでは、  
「今を生きるスターリィマンの物語」の特別編として、  
「宮内庁一筋60年を生きたスターリィマン」を  
お送りしたいと思っています。

残念ながら、ご存命ではありませんが  
日本を心から愛し、日本を守ってくださった  
戦後70年のこの時だからこそ  
お伝えしたいスターリィマンの一人です。

配信は、8月19日(水)です。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

今日は私たちの住む埼玉県の知事選挙日でした。

このメールマガジンの第7話で紹介させていただいた  
上田清司知事の4期目を懸けた大事な選挙。

選挙期間中の17日間。

上田知事は、県民一人一人に届くように  
懸命に埼玉の未来について訴え続け、  
無事に当選を果たされました。

一部では、公約違反だという声も上がりましたが、  
真っ黒に日焼けした上田知事の姿を  
大宮駅前で目の当たりにした時に、  
これほどまでに埼玉のことを考え、  
実際に行動されている方はいないと思いました。

本当に本当にホッとしました。

これからも、埼玉県民のスターリィマンとして、  
9つの風船をお届けいただけたらと願います。

それでは、今回も最後までお読みいただきまして、  
誠にありがとうございました！

私の故郷ではもうすぐお盆。

皆様の中にも故郷に帰省される方が多いのではないのでしょうか？

私にとってのスターリィマンの一人である天国の母に、  
「ありがとう」をしっかりと伝え、  
また頑張る力をいただけてきたいと思います。

皆様も暑さ対策をしっかりなさって、  
よきひと時をお過ごしくださいませ☆

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見 ブログ☆

blog : <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>